

★学校教育目標				◎すすんで学ぶ子 ○からだをきたえる子 ○思いやりのある子 ○最後までやりぬく子				★重点計画の概要			
★目指す学校像（ビジョン）								① 生命尊重の精神を基盤とした、自他の生命を大切にす教育の推進。 ② 確かな学力の定着と新たな学びの創造。 ③ 地域とともに創る教育の推進。 ④ からだを鍛え、たくましく生きるための健康・安全や体力の向上。 ⑤ 多様な他者を受け入れ、一人一人に寄り添う特別支援教育の推進。			
【めざす児童・生徒像】				①向上心をもって、自ら学ぶ意欲をもつ児童。自ら見いだした課題を思考力、判断力、表現力を生かし、様々な人との対話や情報等を活用して探究活動をしなが、意欲的に学び、課題解決をしていく児童。②自らすすんで、基本的な生活習慣を整えるとともに、健康の保持・増進や体力の向上に励む児童。③「いのち」の尊さを自覚し、自分も他人も大切にす児童。④目標達成に向けて努力する児童。一つ一つの役割を丁寧に最後まで果たしていける児童。							
【めざす学校像】				①いのちの尊さを素晴らしさを実感できる学校。②安心・安全な環境で学校生活を送ることができる学校。③児童一人一人の多様性を認め、誰もが過ごしやすい学校。④常に向上心をもって、学び続ける児童を育てる学校。⑤児童一人一人の思いに、寄り添っていく学校。⑥児童一人一人の可能性を引き出す学校。⑦地域や専門家など、多様な人達の支援を積極的に活用する学校。⑧子供たち、保護者、教職員がこの学校でよかったと思える学校。							
【めざす教師像】				①教師としての使命感、熱意、愛情をもち、児童一人一人のいのちを大切にす教師。②児童や保護者、地域の思いや願いを受け止め、寄り添って考えていく教師。③児童の規範となる服務規律を遵守する教師。④目指す児童像や学校像に向けて、努力する教師。⑤「ライフワークバランス」を大事にする教師。							

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策				
				評価点	取組指標	評価点	成果指標						
いのち	○児童が教育活動を通して生命の尊さや生きる喜びについて実感し、考えを深めることで、自他の「いのち」を大切にしようとする意識を高め、行動できる豊かな人間性の育成を図る教育を推進する。	●「生命の尊さ」を実感し、自他の生命を大切にしようとする思いや考えをもつことができる。 ●一人一人の児童理解に努め、児童の思いに寄り添い、児童のよりよい成長を目指す教育を実践する。 ●ふれあい月間やいじめアンケート等を活用して、つらい思いや、苦しい思いをしているケース等を拾い上げ、学校いじめ防止基本方針に基づき、スクールカウンセラー等を活用し、対応、指導の充実を図る。 ●危機管理・安全指導計画に基づき、学校、地域における安全確保の徹底と児童自身の安全に関する意識の向上を図る。	◎「いのちの学習」全体計画、各学年の「いのちの学習」年間指導計画に基づき、各教科、道徳、行事等で計画的に教育活動を実践し目指す児童像を実現していく。PDCAサイクルに基づき、改善を図るとともに、創意工夫のある「いのちの学習」を推進する。 ◎「特別の教科 道徳」の授業を年間計画に沿って、意図的、計画的に実践し、「考え、議論する道徳」の授業に取り組み、自立した人間として、他者とともによりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。	3.2	4	100%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	3.4	4	100%の児童が「生命の尊さを実感し、自他の生命を大切にしたい。」と答えた。	○評議員アンケート結果の評価点：3.4 ・コロナ禍で自分のいのちも他人のいのちも守ることについて改めて実感したと思われる。今後も「いのちの大切さ」「友を思う心の大切さ」についての学習を進めていきたいと思います。	成果指標：3.4 ・年間指導計画に沿って、様々な教育活動において、「いのち」の大切さの指導を繰り返し実践している。また「特別の教科 道徳」において、一人一人が自分と向き合う時間を意識的に取り組んだ。今後も自他を大切にし豊かな心の醸成を進めていく。		
					3	90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。		3	90%以上の児童が「生命の尊さを実感し、自他の生命を大切にしたい。」と答えた。				
					2	80%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。		2	80%以上の児童が「生命の尊さを実感し、自他の生命を大切にしたい。」と答えた。				
				3.3	4	100%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	3.6	4	100%の児童が「自分の生命を守る方法について分かった。」と答えた。			○評議員アンケート結果の評価点：3.4 ・学校内外での行動について、地域・保護者・警察との連携を常にとっていくことが大切である。特に、交通事故の防止について考えたい。登下校中、複数でいると注意が散漫になっている様子を見かける。繰り返しの指導をお願いする。	成果指標：3.6 ・危機管理・安全指導においては、日々の指導の充実はもちろん、コロナ禍の中でも月間、年間計画に沿って警察・消防等とも連携を取り指導を充実することができた。今後も工夫しつつ、「自分のいのち」は自分で守る」ことを目指して有事の際には行動できる児童の育成に努める。
					3	90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。		3	90%以上の児童が「自分の生命を守る方法について分かった。」と答えた。				
					2	80%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。		2	80%以上の児童が「自分の生命を守る方法について分かった。」と答えた。				
学び	○基礎的、基本的な知識、技能的定着と学ぶ意欲の向上、思考力、判断力、表現力等の資質や能力の育成を図る。	●基礎的、基本的な知識・技能の習得と、学ぶ意欲や自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する資質や能力の育成を図る。 ●授業創造プランと放課後補習教室「けやき教室」の活用を図り、確かな学力の定着を推進する。 ●児童が学びたい、追究したいという気持ちをもちながら、一人一人の力を最大限に伸ばしていくことができる教育活動の推進を図る。 ●児童が自ら表現したいと思う授業を目指して、児童の思いや考えを引き出す学習指導の工夫を推進する。	◎各教科、領域等の年間指導計画に基づき、教育活動を意図的、計画的に推進する。 ◎授業のねらいを明確にし、ねらいを達成していくために導入、発問、授業構成、教材準備、板書等に創意工夫を図る。 ◎基礎的、基本的な知識・技能の定着のために、習熟の程度に応じた指導や補習学習、繰り返し学習等、一人一人の児童の実態に応じた指導を行っている。 ◎児童が自分の考えをもち、話し合い、深め合うことを通して、「主体的・対話的で深い学び」の充実を図る。 ◎児童が自ら課題を見つけ、探究的に調べ、考えを深め合って解決していく問題解決学習の充実を図る。	3.2	4	100%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	3.4	4	100%の児童が「すすんで学び、学習内容が分かり、できるようになった。」と答えた。	○評議員アンケート結果の評価点：3.3 ・多くの児童は落ち着いているように思う。教員が児童を理解して接している様子が見られる。これからも頑張ってください。	成果指標：3.4 ・日々の学習指導においては、ねらいを達成するために教材研究や指導の工夫し、単元のめあてを明確にした授業づくりに心掛けた。ミニホワイトボード等の活用は個人または少人数の考えの交流に効果があった。今後も『できる・分かる・楽しい』授業を展開し、児童の学力向上に努める。		
					3	90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。		3	90%以上の児童が「すすんで学び、学習内容が分かり、できるようになった。」と答えた。				
					2	80%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。		2	80%以上の児童が「すすんで学び、学習内容が分かり、できるようになった。」と答えた。				
				3	4	100%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	3.3	4	100%の児童が「自分の思いや考えをすすんで表現できた。」と答えた。			○評議員アンケート結果の評価点：3.3 ・コロナ禍の中、対話的については苦勞したと思われる。子供の思考を活性化させるには関わりは必要だと思う。工夫して行っていることに感謝する。今後のGIGAスクール構想に期待する。	成果指標：3.3 ・研究主題、自分の考えを深めることができる児童の育成、副主題、国語科の話すこと・聞くこと等の指導の工夫では、話し合い活動に制限があり、研究としての深まりは十分ではなかったが、各教員は児童の思いや考えを引き出し、伝え合う授業展開に努めた。今後も児童が学び合い、深め合う授業を工夫し展開していく。
					3	90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。		3	90%以上の児童が「自分の思いや考えをすすんで表現できた。」と答えた。				
					2	80%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。		2	80%以上の児童が「自分の思いや考えをすすんで表現できた。」と答えた。				
地域	○一人一人の児童に「確かな学力」「豊かな人間性」「健康、体力」の生きる力をバランスよく育ていくために、学校、家庭、地域社会が協働した教育活動を推進する。	●地域の自然環境や学校支援ボランティア、専門家等の人材を活用し、自然体験、生活体験、本物体験等の豊かな体験活動を実践し、児童が実感的に学習する、豊かな学びを創意工夫する。 ●学校運営連絡協議会や保護者アンケート等の外部評価を活用し、家庭や地域の学校に対する多様な思いや願いを受け止め、学校教育の充実、改善を図る。 ●児童が地域に出て、地域の方々と活動することを通して、自己有用感を感じたり、地域で様々なことを感じ、学び、自分の生き方を考えたりしていけるようにする。	◎児童が豊かな学びを体験できるように、各学年、各教科等の年間指導計画等に基づき、外部専門家や学習支援ボランティア等を活用した教育活動を企画し、推進する。 ◎児童が学ぶ楽しさ、おもしろさを実感できる体験学習等ができるように、地域の自然環境やボランティア、専門家等の人材活用を図り、創意工夫した授業実践を行う。	2.9	4	100%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	3.4	4	100%の児童が「体験学習等を通して、学ぶ楽しさを感じた。」と答えた。	○評議員アンケート結果の評価点：3.6 ・コロナ禍の中、様々な体験的活動の取組を評価する。多数の行事が変更・中止になる中でも、そのねらいの達成を目指して工夫して行ったことに評価する。	成果指標：3.6 ・コロナ禍の中ではあったが、学習支援ボランティア等地域協力者には、授業再開後に今までと変わらず支援をいただくことができ、効果的な学習活動になった。児童にとっても地域への愛着を高めることができた。今後も地域を大切に活動を展開し郷土愛を高めていく。		
					3	90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。		3	90%以上の児童が「体験学習等を通して、学ぶ楽しさを感じた。」と答えた。				
					2	80%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。		2	80%以上の児童が「体験学習等を通して、学ぶ楽しさを感じた。」と答えた。				
				2.9	4	100%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	3.2	4	100%の児童が「地域の中で、役立つ体験ができた。」と答えた。			○評議員アンケート結果の評価点：3.5 ・学校サポーターの活用などが円滑に進んでおりよい。今後も地域の方とのつながりを大事にして欲しい。今後の取組に期待する。	成果指標：3.2 ・コロナ禍の中、地域への情報発信においては十分ではなかった。学校行事や学校公開も保護者のみと制限があり、外部や地域への発信方法を今後は充実させていく必要がある。一方、多くの保護者から学校教育の工夫や児童の安全・安心等の発信に評価を得た。次年度は、外部にも情報発信の工夫をしていく。
					3	90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。		3	90%以上の児童が「地域の中で、役立つ体験ができた。」と答えた。				
					2	80%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。		2	80%以上の児童が「地域の中で、役立つ体験ができた。」と答えた。				
健康・体力	○からだを鍛え、たくましく生きるための健康・安全や体力の向上を図る。	●オリンピック・パラリンピック教育を推進し、体育授業の充実を図る。 ●自らすすんで健康の増進と体力・運動能力の向上に努め、生涯を通して運動やスポーツに親しむ態度を養う。	◎意図的に多様な運動を一定期間重点化し、アクティブタイム等日頃から児童が運動に親しむ機会を設定することで、日常的に体力向上と健康増進を図る。 ◎家庭や地域と連携して、望ましい食習慣や基本的な生活習慣の確立、創意工夫を凝らした食育の充実を図り、生涯にわたる健康づくりの基礎をつくる。	3	4	100%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	3.5	4	100%の児童が「健康な生活を送るための運動や食事を心がけている。」と答えた。	○評議員アンケート結果の評価点：3.6 ・コロナ禍の中、運動会の実施の仕方や内容が工夫されていて大変良かった。子供たちの一生懸命さが表れていた。衛生習慣が身に付いたこともよい。今後もどんな状況であっても工夫して乗り越えていくことを期待する。	成果指標：3.5 ・体力向上への日常的な活動に制限があり、試行錯誤の1年であった。健康教育の視点では、児童に安全衛生行動を身に付けさせることができた。また「がん教育」には取り組めたが、食育の大切さを認識し、健康づくりの基盤をつくることを期待する。		
					3	90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。		3	90%以上の児童が「健康な生活を送るための運動や食事を心がけている。」と答えた。				
					2	80%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。		2	80%以上の児童が「健康な生活を送るための運動や食事を心がけている。」と答えた。				
					1	具体的方策を意識して取り組んだ教員が、80%未満だった。		1	「健康な生活を送るための運動や食事を心がけている。」と答えた児童が80%未満だった。				
特別支援	○多様な他者を受け入れ、一人一人に寄り添う特別支援教育を推進する。	●児童の教育的ニーズに応じたきめ細やかな特別支援教育の充実を図る。 ●全ての児童が参加し、分かる喜びを体感できる授業の創造に努める。	◎支援委員会等の組織的な校内体制の充実、ステップ教室やリソースルームの活用、関係諸機関との連携、就学支援シート、かしのきシートの活用を図っていく。 ◎授業のユニバーサルデザイン化と日野スタンダードを基盤にした授業を実践する。	3.4	4	100%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	3.6	4	100%の児童が「児童一人一人が、大切にされている。」と答えた。	○評議員アンケート結果の評価点：3.5 ・児童一人一人が大切にされていることがよくわかる。やる気が湧いて考え、工夫することで能力を伸ばすことにつながるので、今後も継続してほしい。	成果指標：3.6 ・今年度から特別支援教室拠点校として、巡回指導教員との連携を密にとることができた。支援を要する児童については、校内支援委員会を中心に組織的に対応し、保護者との連携も深まり児童一人一人の教育的ニーズに応じた教育を充実できた。今後もSCやリール・ハイター、巡回心理士との連携を充実させ、より一層の充実を図る。		
					3	90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。		3	90%以上の児童が「児童一人一人が、大切にされている。」と答えた。				
					2	80%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。		2	80%以上の児童が「児童一人一人が、大切にされている。」と答えた。				
					1	具体的方策を意識して取り組んだ教員が、80%未満だった。		1	「児童一人一人が、大切にされている。」と答えた児童が80%未満だった。				

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。